神の人類救済の御心

創世記12:1～3

2022/3/20

　珍しいことが、日本で起きています。戦火を逃れて母国を脱出しているウクライナ人を、難民として受け入れると日本政府が早々と発表し、地方自治体でも、民間でも、ウクライナ難民を受け入れる動きが、そこここで起来ています。国会でも、与野党を超えて、「ウクライナ人を助けろ、難民を受け入れろ」の声で一致しています。昔から、日本政府は難民受け入れには消極的でした。人口が急減し、国民の高年齢化が進んでも、難民受け入れに消極的だったのは、まさに、民意に近いものでした。ところが、ウクライナに関しては、それが「コロッと」変わってしまったのです。いろいろな理由があるかと思いますが、日本が難民を受け入れるようになったのは、一歩前進とも考えられます。とは言え牧師は、その背後に強い人種差別を感じて、心が重くなっています。

　ウクライナの悲劇が、これほど日本人の間でも大きく報じられ、話題になるのは、それが人類史上まれに見る、悲劇だからではありません。もっともっと大きな悲劇がたくさんありました。ただ、核兵器が持ち出される危険があるからというのは、正しいでしょう。でも最大の理由は、それがヨーロッパで、しかも、小麦色の肌の南ヨーロッパではなく、真っ白な肌と金髪碧眼（きんぱつへきがん＝金髪と青い目）の人たちが多く住む、地域で起こっているからではないでしょうか？　例えば、今のアメリカでも、WASP と呼ばれる人たちが人種的に最高位であると、一般的に認められます。白人で、アングロサクソンで、プロテスタントの人々という意味ですが、もともとは最初にアメリカに渡って来た、イギリスの人々、それから少し枠を広げて、スカンジナビア系の人々を指しています。ウクライナは WASP には入りませんが、イギリスやスカンジナビアの国々のように金髪碧眼の人がたくさん住む、進んだ文化の国だと認識されることが多いのです。でも本当は、全体主義の体制から自由主義に移行してから日が浅く、人権意識も言論の自由もまだまだ開発途上国なみなのです。多くの日本人も、文化の高い国と誤解し、教養が高く美しい人が住む整った国と考えているのです。産児制限のために妻不足に陥った中国の男性たちが、ウクライナの難民女性を妻にしようと、騒ぎ立てているほどには露骨ではありませんが、なにか、同じ意識を日本人の中に感じます。

　かつて、ベトナム難民がボートで日本に漂着したとき、日本政府はどのような取り扱いをしたでしょう。カンボジアやミャンマーなど、東南アジア、あるいはアフガンやバングラデッシュ、さらに、イランやイラク、シリアなどの中東の難民を、日本政府が受け入れようなどと言ったことがあるでしょうか？　地方自治体や一般の人たちが、そんな運動を起こしたことがあるでしょうか。アフリカの人々が、大量虐殺で数百万も殺されているとき、日本政府は彼らを救おうとしたでしょうか。ウクライナの子供たちがたくさん殺されていると、涙を流す人がテレビに出ていましたが、ボコハラマムが、数千人のナイジェリアの女性やこどもたちを誘拐し、殺し、レイプし、強制的に妻にし、あるいは少年少女の兵士に仕立てていた時、メディアはどれだけ声を上げたでしょうか。一般の人たちはどうだったでしょう。この現在の日本で、不法滞在とされた外国人たりが、収容所でどれほど非人間的な取り扱いを受けているかは、牧師は幾度か指摘してきました。近くの大村の収容所もその一つです。大変な困難を超えて、日本に難民として入国したウクライナ人の今後も、どのような

生活ができるかまったく不明です。法整備ができていないのです。下手をすると、収容所で殺された、スリランカの女性のようになる可能性さえあるのです。

それでも日本人には、他の国の人々に比べて、人種を超えてでも、苦難に陥っている人間を助けようとする意識が、高かったと思われるのです。日独伊同盟の中で、ユダヤ人を救おうとぎりぎりの努力をした日本人は、杉原千畝だけではありません。2万人のユダヤ人を救おうと東奔西走した樋口季一郎中将を、東条英機が決然と擁護したことも美談です。悪い日本人の代表のように言われている東条ですが、ヒトラーの顔色をうかがうこともなく、ユダヤ人へ救いの手を差し伸べたのです。シベリアに抑留されて死んだポーランド人の孤児675人を、無関心を装う先進国の潮流に逆らって、自国に連れてきて手厚く持てなして救い、本国に送り届けたのも日本人です。そのために、孤児たちが持ってきた感染症、腸チフスに罹患して命を落とした、松澤フミという23歳の看護婦もいました。

トルコ海軍のフリーゲート艦が、明治天皇に謁見した親善使節団一行を乗せて串本で座礁し、587名が死亡し、わずか69名だけが助かったという事故がありました。この時、人種の壁を超えて命を賭けて彼らを救助し、支援活動に携わったのは日本の漁師たちでした。それがトルコでは、小学校でも教えられている逸話です。この出来事から95年後、イラン・イラク戦争に巻き込まれて逃げ遅れ、切羽詰まった215人の日本人を命がけで救助したのは、日本に感謝の気持ちを持ち続けていた、トルコの政府でした。すでに飛行禁止令が出され、人命救助の飛行機はすべて出払い、無理に進入すると撃墜される危険があった中、2 機の飛行機と搭乗員を提供してくれたのです。

最貧国のひとつであった韓国を、清国から解放しロシアの魔の手からも守り、併合してまでも（植民地にしたのではない）近代化したのも日本です。日本は35年間の統治の間に、それまでの身分制度を廃止し、教育を改革しハングル文字を普及させ、学校を立て、識字率を上げ、インフラを整え、産業を発展させるなど、多くの優遇処置を施すことにより、1千万人だった国民が 3 千 5 百万人にまで増加するほど、豊かにしたのです。このために最初の数年だけで、自国の国家予算の数倍もの金を費やしています。（韓国人はこれらの歴史を無視し、独自の反日歴史を捏造していますが。）

台湾は、さまざまな侵略勢力、たとえば大陸の明国や、ポルトガルやスペインなどなどの支配権の争いで荒廃し、ついにオランダに支配され、そのあと、大陸の清国に統治され、貧しい後進国として取り残されていました。それを本国に併合し、韓国と同じように近代化し、豊かにしたのは日本です。台湾は韓国とは異なって、日本が多くの費用と多大の努力をもって、台湾の繁栄と安定に大きな貢献をしたことを積極的に評価し、最も親日な国家になっています。

さらに日本は、国連にもアメリカについで多額の拠金をしています。国連が世界にどれだけ貢献しているか疑問ですし、そもそも国連は、いまだに日本を敵対国家に指定したままであるにも拘わらず、どういうわけか、日本は国連を信頼しサポートし続けています。政府が翻訳をあえて間違ったままに残し、日本人を

騙しているのかもしれません。国連の英語名は UNITED NATIONS です。これは日独伊の 3 国同盟に対峙し、これに勝利した「連合国」のことです。その連合国が、国連と翻訳されてそのまま残ったのです。ですから国連は、今も日本を敵国と指定したままなのです。

また日本は ODA などを通して、かつて植民地とされ混乱と貧しさの中に残された、多くの開発途上国を黙って支援し続けています。中国が世界第二の経済大国になったと、誇らしげに宣言したときも、日本は中国に資金援助をし続けていたのです。善意が昂じてお人よしです。そのようなお人よしの国の国民であることを、牧師は密に喜んでいます。

とは言え今の日本には、政府にも民間にも、人種差別意識が根強く残っているのも事実です。確かに、アメリカのようなあからさまな人種差別はありません。それどころか 1919 年、パリで開かれた国際会議で、世界で初めて、人種差別撤廃法案を提案したのは日本です。しかし、今回のウクライナ問題で、日本人の人種差別がいかに根深いかと、気づかされるのです。

ウクライナの人々を助けようとすることには、少しの反対もしません。むしろ大賛成で。でも独裁政権の偽情報に騙され、何にも知らないまま、貧しさの中に陥れられる、ロシアの人々のためにも祈りましょう。世界中で差別を受けている、あらゆる人たちのために祈りましょう。私たちの中から、差別意識が取り除かれるように祈りましょう。

聖書の教えにも、記述にも、人種差別は一切出てきません。たとえ、選民イスラエルに敵対している民族や部族の人々でも、人種による差別はされていません。神様の御心は、すべての民族、部族の祝福だからです。

それなのに、律法(旧約聖書)を与えられたイスラエル民族は、自分たちは優れた民族だから、神の選びを受けたのだと、誤った選民意識を持ち、民族的差別意識を持ってしまいました。キリスト教という宗教を受け入れ、少しばかり文明の先覚者となった西欧の人々も、自分たちの宗教と文明を誇り、自分たち以外の人々を見下すようになってしまいました。

神様がイスラエル民族をお選びになったのは、世界のすべての民族、部族に福音を行き渡らせるためでした。差別のためではなく、全世界に神の救いをもたらし、世界中の人々が、人種の差別なしに、だれでも同じ条件で救いに入ることができるためでした。福音がヨーロッパ回りで伝達されたのも、神様の深いご配慮によるのだと思います。ヨーロッパに属さない人々を差別するためではなかったはずです。

私たち日本人は、イスラエル人への救いの、余剰分をいただいているのではありません。ヨーロッパの人々への福音の、食べ残しをいただいているのでもありません。初めから、日本人も、福音の対象にされているのです。同じように、日本人を嫌い憎み続けている韓国の人々も、初めから主の救いの対象でした。キ

リスト教に敵対する回教徒の人々も、最初から福音の対象なのです。

それにしても、日本のメディアの一方的な報道にも、嫌気が差します。まるでプーチンが300%、一方的に悪いかのような報道です。確かにプーチンの悪、あるいは誤りは明白でしょう。しかし、ウクライナとその大統領はそれほど潔白でしょうか？ NATO は完全な善玉なのでしょうか？ その背後のアメリカは信じられるのでしょうか。こと戦争とその発端については、ほとんどの戦争当事国は嘘を言い続けてきました。アメリカも同じです。真珠湾もそうですが、それよりずっと前の、たとえばメキシコからテキサス州を奪ったのは、新疆ウイグル地区を奪い取った中国と同じ手口です。トンキン湾の事件を捏造してベトナム戦争に積極的に加わったのもアメリカです。イラク戦争もフセインが生物化学兵器を隠し持っていると言って、攻撃を始めましたが、結局、そうではありませんでした。戦争というのは騙し合いです。戦争では嘘の情報を流すのが、作戦として正当化されるのです。プーチンが、今のような判断と行動をするようになった背後には、むかし日本が、アメリカによって補給線を破壊され、石油をはじめとした物資を輸入できなくなってしまって、アメリカと戦争を始めなければならない状態に、追い詰められてしまったのと同じような、のっぴきならない状況に追い詰められたという、被害者意識もあったのです。そして大本営発表のように、たとえ負けていても、勝っていると嘘の情報を流し続けているのです。

物事は複雑です。人間の世界には完全な悪も、完全な善もありません。広く物事を見、公平な判断が必要です。またどれほど公平に判断したと思っても、自分の立場からの一方的な視野による判断であるかもしれません。情報そのものが正確でなかったり、偽物だったりする可能性もあります。特に今は通信情報機器が発達して、情報戦争の形になっています。断定的な判断は避けなければなりません。

その上、私たちの日本は、陸地続きの国境を持っていません。周りはすべて海です。そのため人間の行き来も極めて限られていて、陸続きの国々の境界線が複雑に入り組み、人の往来も激しく、人種と原語の混合も著しい土地に住む人たちとは、国家とか国民とか言うときの感覚が、大きく異なっている可能性も理解しなければなりません。たとえウクライナ人が、ウクライナを独立国家だと信じていたとしても、ロシアがウクライナを「小ロシア」とみなすのも、歴史の経緯から考えて、あながち間違いとは言い切れないところもあるのです。

そこで今、私たちにとって大切なのは、私たちはクリスチャンであるという事実です。神様のみ手にゆだね、自分たちでは戦わないことも大切なのです。少なくても、自分の個人的生活に関しては、いかなることがあっても、復讐は自分では行わないのです。だからといって、非戦論が絶対に正しいとは思われません。とにかく、私たちには全体を見渡すことも、公平に判断することもできません。だからこそ、「あなたの御心がなりますように」と、全知全能で、人類の歴史を支配しておられる、神様にお任せして祈りましょう。神様がこのような世界に終止符を打たないで、継続させてくださっているのは、一人でも多くの人が、永遠の命を得るためなのです。